

平成 25 年度病害虫発生予報第 3 号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ(技術情報第 2 号) 縞葉枯病（技術情報第 2 号） ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 やや少 並 並 並 並 並	並 やや少 並 並 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ） ハダニ類	並 並 多	並 並 多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	少 並 並 やや少 並	少 並 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 少 並	並 少 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 並	並 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並 やや少	並 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 並 並 やや多 やや多 並	やや少 並 やや多 並 やや多 やや多 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
6月3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
6月10日	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
6月11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	1 : 準好適条件1	2 : 準好適条件2	3 : 準好適条件3	4 : 準好適条件4	: 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	--------

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成25年6月18日付け病害虫発生予察技術情報第2号による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月下旬のイネ科雑草地(2地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(0%)であった。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は43.9%(20.6%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は4.2頭(1.6頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

(2) 予報の根拠

- ア セジロウンカは、5月28~29日にかけて飛来があり、5月28日に予察灯(諫早市)で初確認した。トビイロウンカは、6月18日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていないが、5月30日、31日に現地水稲で成虫を確認した。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.4頭(0.1頭)、発生圃場率は48.8%(21.5%)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は1.5頭(0.9頭)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

- ア 5月28日にフェロモントラップ(諫早市)で誘殺を初確認した。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲における食害株率は0.1%(発生を認めない)、10㎡当たり成虫数は0.01頭(0.0頭)であった。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、食害株率は0.2%(0.3%)、成虫及び幼虫の発生は認めなかった(成虫の10㎡当たり虫数0.0頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（32筆）の結果、発病株率は5.7%（9.3%）、発生圃場率は43.8%（50.0%）であった。

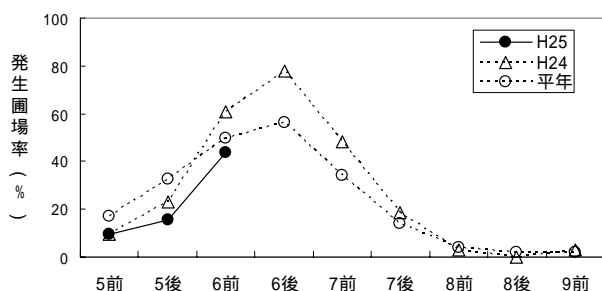


図 うどんこ病 発生圃場率の推移

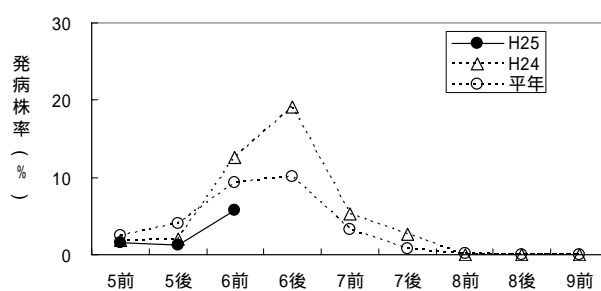


図 うどんこ病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発すると防除が困難になるので、本病が発生しやすい葉裏をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。
- イ 薬剤は、葉裏や下位葉にむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- エ 子苗（ランナー）を切り離れた後、親株は早急に除去し処分する。
- オ 雨よけ育苗では発生が多くなる傾向があるので注意する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月上旬の巡回調査（32筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.2%、発生圃場率0.4%）。
- イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みである。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実にを行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 高設育苗、雨よけ育苗および全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。
- ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的にを行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（32筆）の結果、寄生株率は3.1%（1.5%）、発生圃場率は46.9%（19.0%）であった。

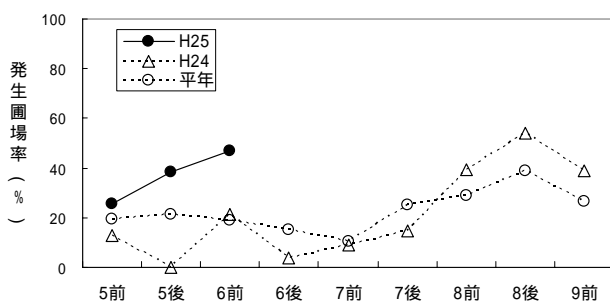


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

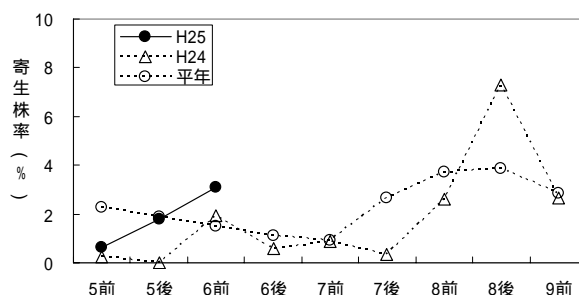


図 ハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は薬液が葉裏に十分付着するように丁寧に散布する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は11.1頭(過去6年平均24.7頭)、発生圃場率は100%(過去6年平均72.2%)であった。

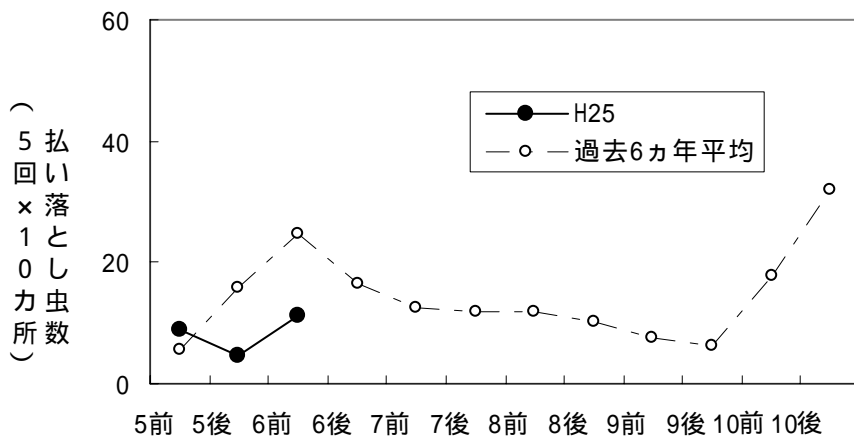


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率9.6%)。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 向こう1ヶ月の降水量は平年並と予想されている。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は8.3%(6.8%)、発生圃場率は44.4%(45.0%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(被害果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

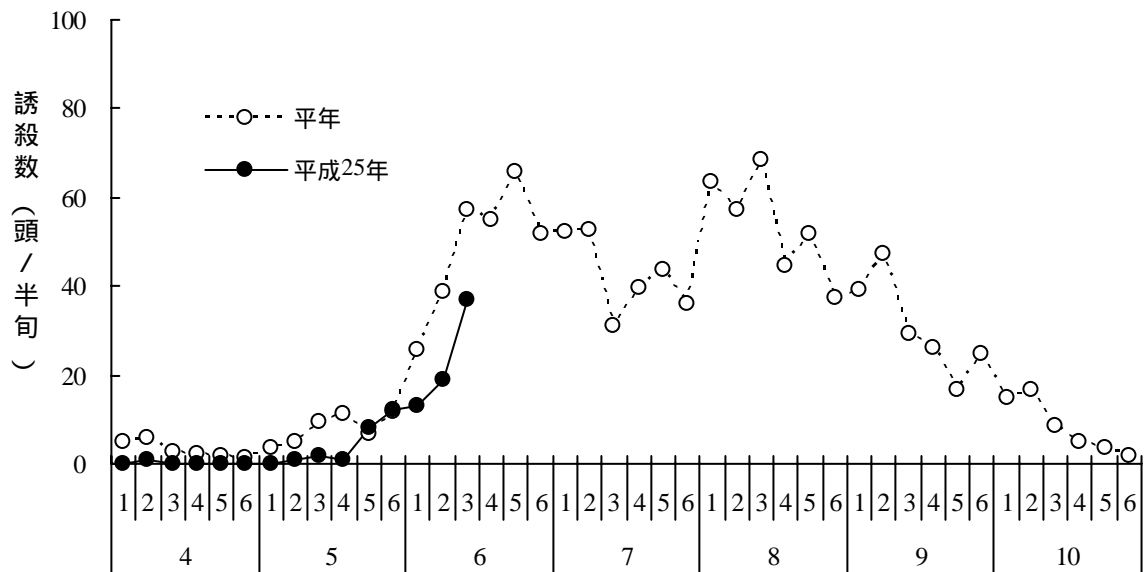


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温度により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第2世代	6/6	6/8	6/14	6/7	6/19	6/9
" (前年)	6/8	6/8	6/15	6/9	6/20	-
第3世代	6/28	6/30	7/7	6/29	7/12	7/1
" (前年)	6/30	7/1	7/8	7/1	7/12	-
第4世代	7/17	7/19	7/27	7/17	7/31	7/20
" (前年)	7/19	7/19	7/27	7/19	7/31	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1: 積算には2013年6月16日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、向こう1ヶ月の平均気温は高く推することが予想されるため、今後の気温の推移により予測日は前後する場合がある。

注3: 発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い圃場では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.0%、発生圃場率0.3%)。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期(有機リン剤の場合、初発日の40日後)は下表のとおりと予測されている。

表 ヤノネカイガラムシ初発生予測日と防除適期

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/7	5/10	5/8	5/7	5/10	5/8	5/11	5/11	5/7	5/11	5/12	5/8
前年予測日	5/9	5/11	5/9	5/9	5/10	5/9	5/11	5/11	5/8	5/12	5/13	-
IGR剤防除日	6/1	6/4	6/2	6/1	6/4	6/2	6/5	6/5	6/1	6/5	6/6	6/2
有機リン剤防除日	6/16	6/19	6/17	6/16	6/19	6/17	6/20	6/20	6/16	6/20	6/21	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1:初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日~4月30日)を用いて「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」により算出した。

注2:IGR剤と有機リン剤の防除適期は、それぞれ初発日の25日後および40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期は遅れる場合があるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は1.6%(1.3%)、発生圃場率は80.0%(43.8%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は平年並と予想されている。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率は7.7%、発生圃場率81.3%)。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.6%(0.1%)、発生圃場率は10.0%(1.3%)であった。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している。また、長崎市茂木の誘殺量は前年並で推移している(図)。

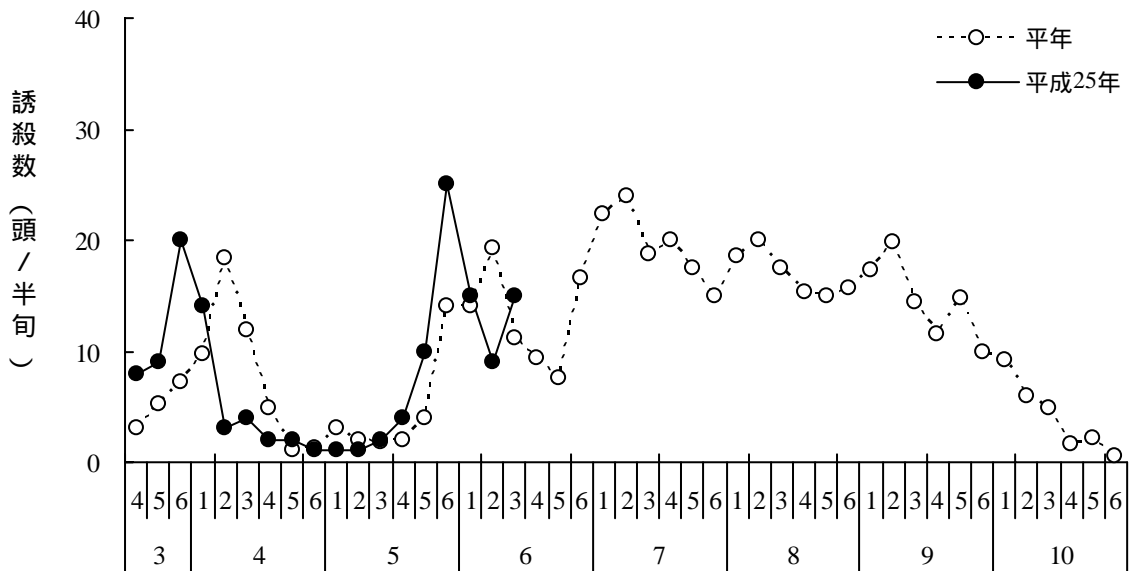


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町: フェロモントラップ) (月・半旬)

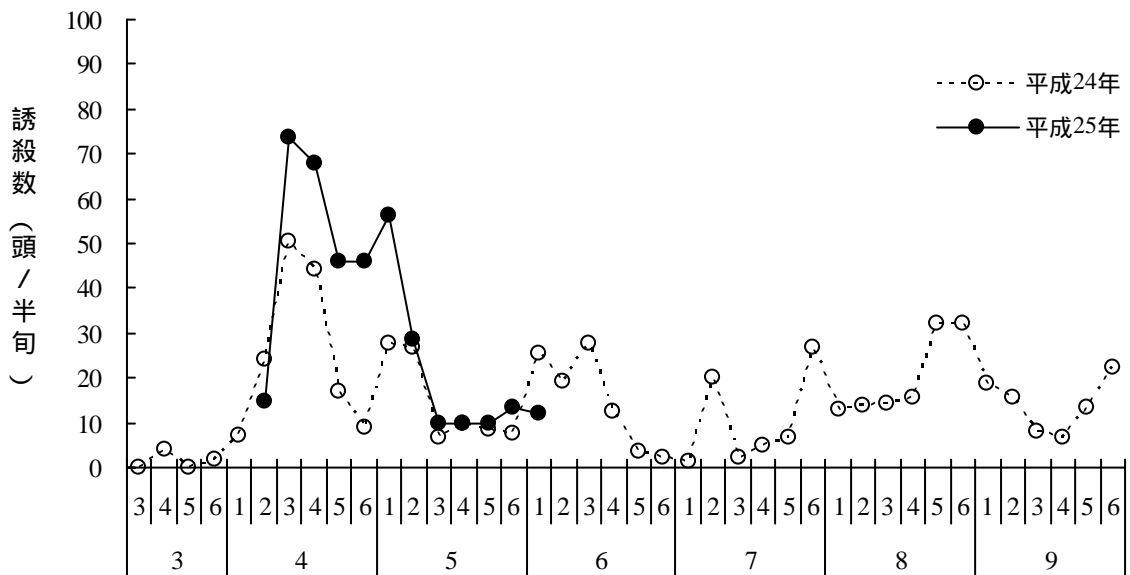


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(長崎市茂木: フェロモントラップ) (月・半旬)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.6%(0.7%)、発生圃場率は33.3%(39.5%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ（諫早市小船越町）での誘殺量は平年並で推移している（びわの項参照）。

ぶどう

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は16.7%（2.1%）であった。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、葉では、発病葉率は0.0%（0.3%）、発生圃場率は8.3%（12.5%）であった。また果房では、発病果房率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は8.3%（2.1%）であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（被害果房率0.4%、発生圃場率10.4%）。
- イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（かんきつの項参照）。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市小船越町及び西海市西彼町で平年並に、諫早市多良見町及び南島原市有家町では平年より少なく推移している（下図）。
- イ 6月上旬のかんきつ、びわ及びなしにおける巡回調査の結果、圃場への飛来を認めなかった。
- ウ 病害虫防除員の報告によると、一部のかんきつ及びなし園への飛来が認められている。

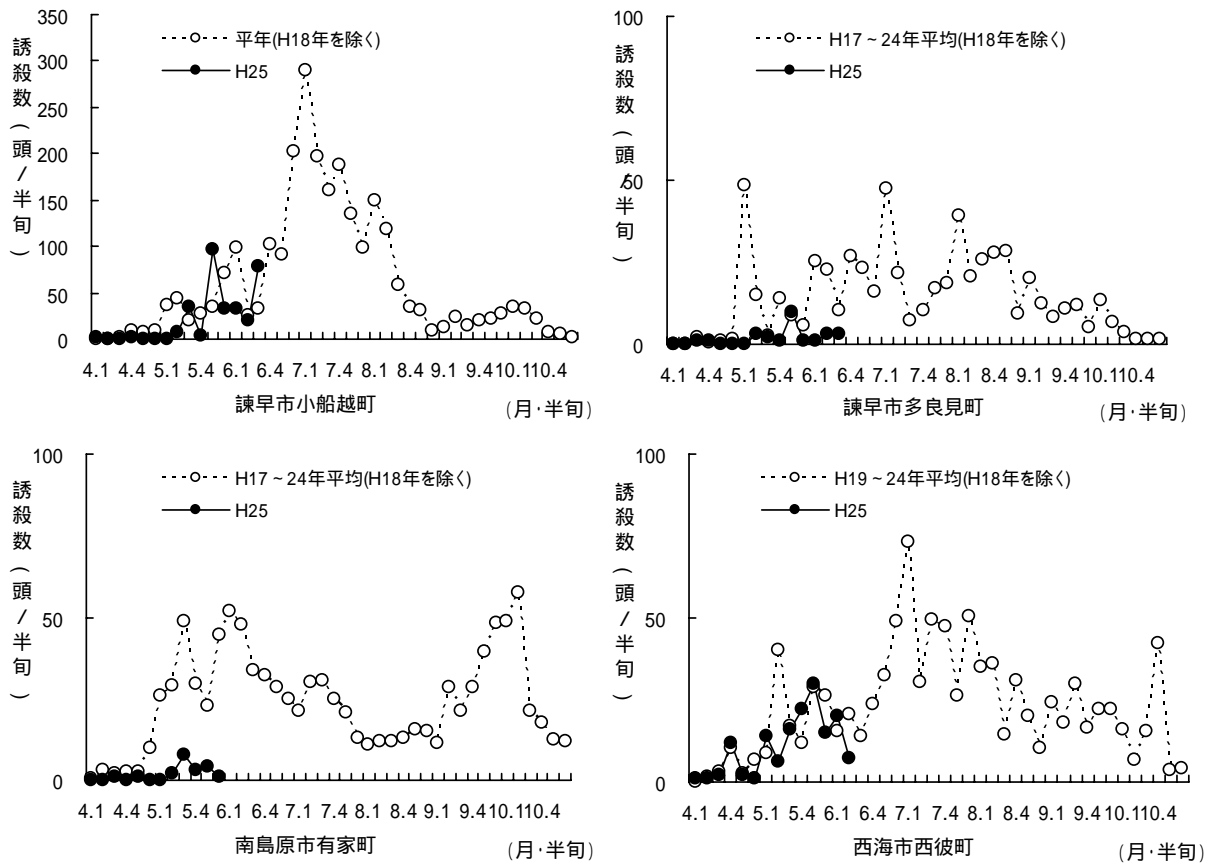


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.1枚(0.9枚)、発生圃場率は10.0%(23.8%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は12.7頭(18.6頭)、発生圃場率は90.0%(83.1%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は5.0%(5.0%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、5月1~3半旬にピークが見られ、平年より多く推移した(図)。

ウ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

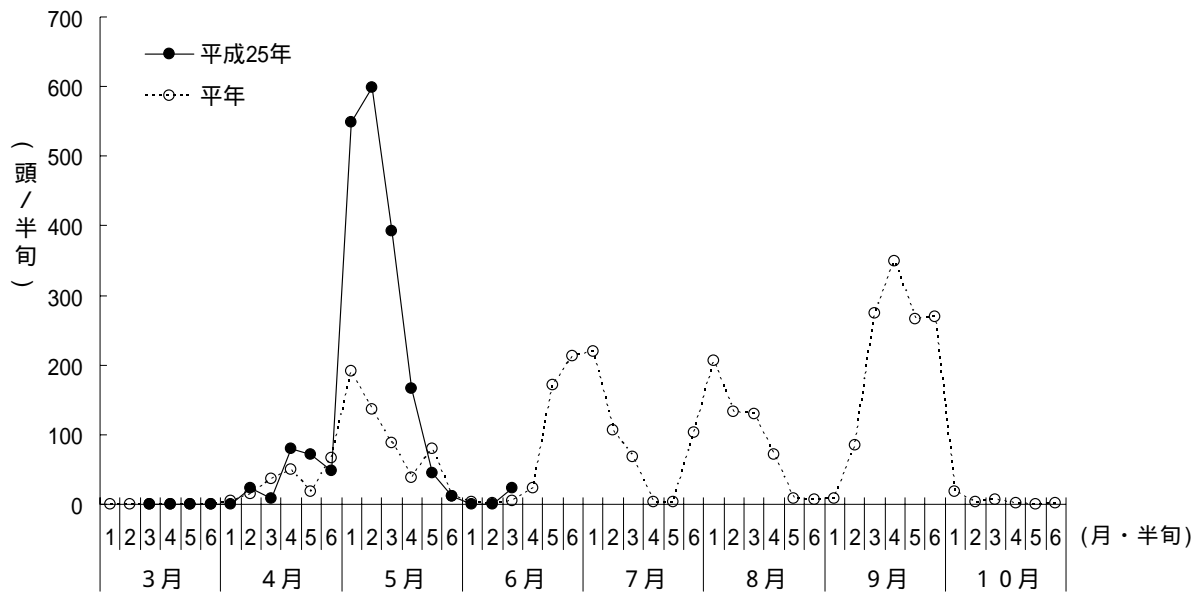


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

発蛾最盛期から7～10日後に薬剤散布すると効果が高い。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.4枚（0.0枚）、発生圃場率は15.0%（5.6%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、6月1半旬にピークが見られ、平年並で推移している（図）。

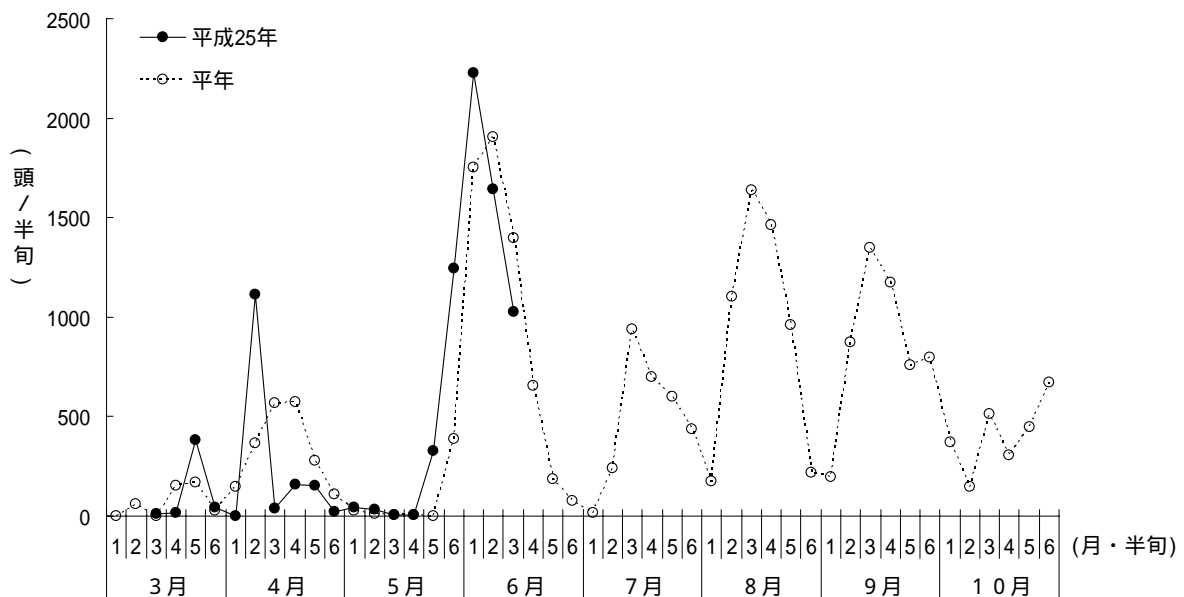


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は6.0%(1.7%)、発生圃場率は50.0%(16.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は8.3頭(2.1頭)、発生圃場率は50.0%(53.1%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は9.3%(6.2%)、発生圃場率は35.0%(38.1%)であった。

【参考】
気象

(平成25年6月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

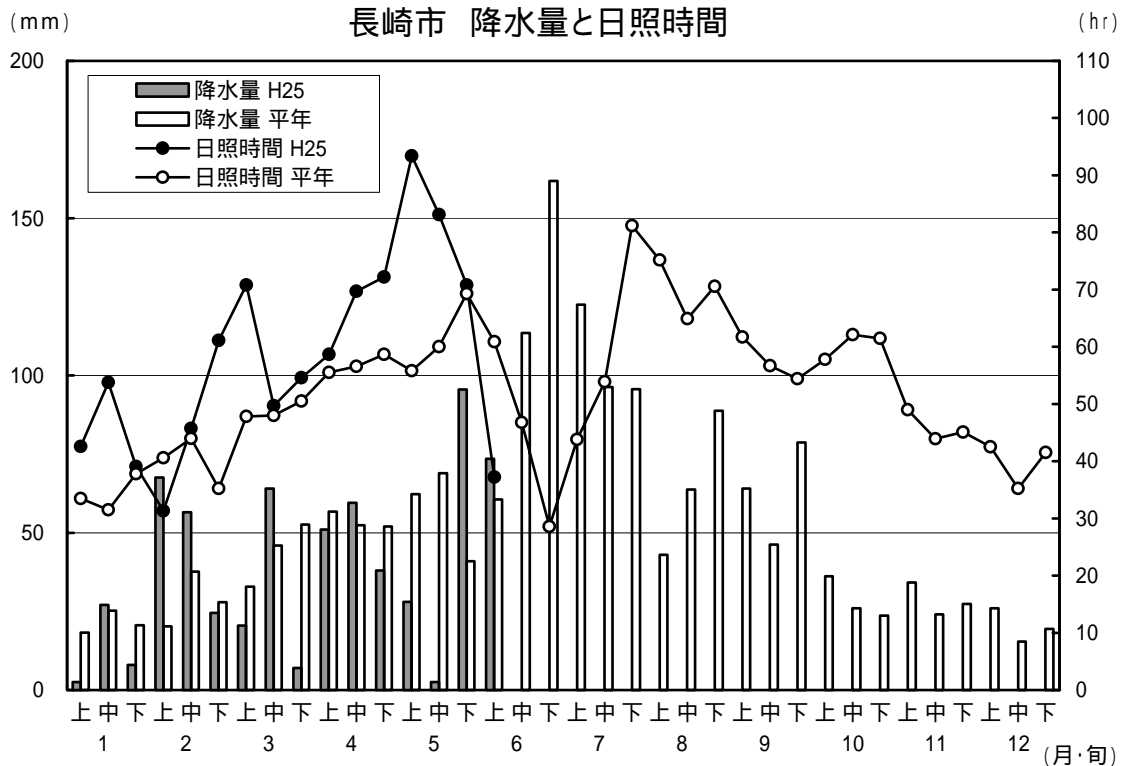
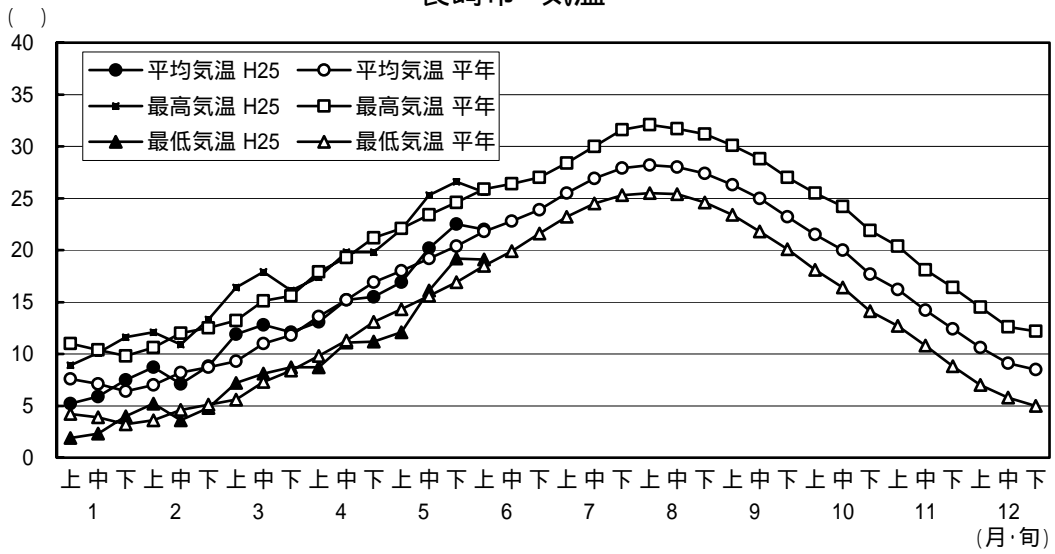
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成25年の気象経過（長崎海洋気象台）

長崎市 気温



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027